

大学生の考える小学校音楽教師の資質・能力

瀧川 淳・古山 典子*

How University Students think about the attributes and abilities
of the music teachers

Jun TAKIKAWA and Noriko KOYAMA

1. 問題の所在と研究の目的

平成29年3月に第9次小学校学習指導要領が告示された。この改訂における音楽科の目標では、以下の3点の資質・能力を育成するよう、記述されている。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(「知識及び技能」の習得)
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。(「思考力・理解力・表現力等」の育成)
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。(「学びに向かう力、人間性等」の涵養)

小学校教師は、地域や子どもたちの状況に応じて、これらの目標の達成に向けて音楽の指導を系統的に行なっていく。では、この目標達成のために、小学校教師に必要とされる音楽授業で指導するための資質・能力とはどのようなものなのだろうか。

このことを明らかにするための予備的調査として、本稿は、将来、小学校教師、中学校教師、高校教師を目指す大学生を対象とした質問紙調査における自由記述回答を基に、大学生の考える「小学校音楽教師の資質・能力」を考察することを目的とする。

なお、中高の教師を目指す学生については、音楽専攻であるかどうかを問わず、副免許として小学校教員免許の取得を希望する学生であることを条件とした。分析では、小学校教師を目指す学生と、中高教師を目指しながら小学校教員免許を取得しようとする学生の考えを比較する項目を設けた。これは、

音楽教師の資質・能力の捉え方に違いがあるのかについても考察の対象とするためであり、大学生が「小学校音楽教師」として身に付けるべき能力をいかに捉えているのかを複眼的に明らかにしようとすることを意図している。

2. 先行研究について

教師への質問紙調査による研究は多く見受けられるものの、学習者に対して「音楽科」あるいは「音楽(を教える)教師」について質問紙調査を実施した研究は多くない。

学習者への質問紙調査としては、2015年に日本音楽教育学会が行ったWebでの質問紙調査が挙げられる。この調査は、小中高の児童生徒に対して行われたもので、音楽科授業への思いを学習者の立場から明らかにするものであった。一方、大学生を元学習者として対象にした質問紙調査には、森村祐子(2012)の研究があるが、これは、大学生が小学生の時に音楽専科教師が配置されていたか否かによって、指導内容に違いが見られるのかを明らかにしようとしたものである。

また、教員養成課程に在籍する学生に対して、学生自身の力量形成を測るために質問紙調査を行った先行研究はあるものの、将来その立場に立とうとする学生に、音楽教師に必要とされる資質・能力をどのように捉えているのかを問う研究は、筆者らによる研究以外には見当たらない。

3. 質問紙調査について

1) 質問紙調査について

本調査の質問紙調査では、国立大学教育学部ならびに公立大学教育学部に所属する199名の大学生から回答を得た。なお、この調査は、2016年7月から8月に行ったものである。

公立大学教育学部に所属する学生については、基

* 福山市立大学教育学部

礎的な楽典の理解と弾き歌いに取り組む授業の履修者であり、教科教育を学ぶ「音楽科指導法」は未履修の状態である。

また国立大学教育学部に所属する学生についても同様に、教科教育は未修で、小学校で音楽を教えるために必要な楽典を学ぶ学生を対象に調査を行なった。

本稿で触れる質問紙調査の項目は、目指している職種（小か中高か）、自分にとって音楽授業はどのような場であったか（質問1、選択肢設定）、一番印象に残っている音楽授業とはどのようなものか（質問5、自由記述）、教師になるために身に付けるべき知識や能力は何か（質問7、自由記述）、音楽授業で教えるべき事柄（質問8、選択肢設定）は何か、である。なお、質問紙調査全体については、7. 資料を参照されたい。

「質問1」と「質問8」で設定した選択肢は、以下の通りである。

「質問1」の選択肢

- ・ 普段接することのない音楽に触れる場
- ・ みんなと一緒に音楽する場
- ・ 音楽表現の技術を身につける場
- ・ 音楽の知識を身につける場
- ・ 音楽を理解する場
- ・ 息抜きをする場
- ・ その他（自由記述、本稿では除外）

「質問8」の選択肢

- ・ 音楽による表現を楽しむ
- ・ 音楽表現の技能を高める
- ・ 協調性を育む
- ・ 多様な音楽文化に触れる
- ・ 余暇を楽しむ素地を作る
- ・ 音楽に対する感性を育成する

2) 質問紙調査対象者の内訳

前述した通り、質問紙調査への回答者は計199名で、小学校教師を目指す者が109名、中高の教師を目指す者が90名であった。内訳は、国立大学に所属する学生が小82名と中高90名、公立大学が小27名である。なお、本稿の分析では、小学校か中学校かが未定の学生の回答は除外した。

3) 自由記述回答の分析方法

本稿でのテキストデータ分析に用いたソフトウェアは、KH Coderである。KH Coder (ver. 2.0of) は2001年に樋口耕一によって開発され、インターネット上で公開されている計量テキスト分析のためのソ

フトウェアである。このソフトウェアの特徴としては、従来のテキストデータ分析で必要だった手作業を省くことで、分析者のバイアスを排除できる点、多変量解析によって客観性を保持できる点が挙げられる。

4. 自由記述回答の分析と考察

1) 小学生の時に、一番印象に残った授業

1-1) 小学校教員を目指している学生

自由記述は、先にも述べた通り、KH Coderを用いて分析を行なった。「小学校の時に、一番印象に残った音楽授業の内容を教えてください」（設問5）に対して、小学校教員を目指している学生109名からの回答を単純集計したところ、抽出語の総数は1,225語、段落数は106であった。これら抽出語の内、頻出した語上位11位までが、表1である。

表1 小学生の時に一番印象に残った授業（小学校教員を目指している学生）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	合奏	22	8	覚える	6
1	練習	22	8	先生	6
2	演奏	16	9	音楽発表会	5
3	楽器	12	9	弾く	5
4	合唱	11	10	音楽	4
5	使う	9	10	音楽会	4
6	歌う	8	10	年	4
6	曲	8	10	木琴	4
6	向ける	8	11	スターウォーズ	3
6	授業	8	11	テスト	3
7	クラス	7	11	学年	3
7	歌	7	11	合わせる	3
7	楽しい	7	11	色々	3
			11	全員	3

またこの頻出語に対して、共起分析を行なった結果が図1である。分析にあたっては、最小出現数を3、また描画する共起関係の絞り込みは、描画数を60に設定している。大きな円ほど出現数の多い語で、色分けは「媒介中心性」により、色が濃いものほど中心性が高くなる。

1-2) 中学校または高校教員を目指している学生

次に、中学校または高校教員を目指している学生90名からの回答を単純集計したところ、頻出語の総数は563語、段落数は86であった。これらの内、頻出した語上位9位までが、表2である。またこの頻出語に対して、共起分析を行った結果が図2である。分析にあたっては、最小出現数を2、また描写する共起関係の絞り込みは、描画数を60に設定している。まず驚くべきことに、小学校教員を目指す学生も

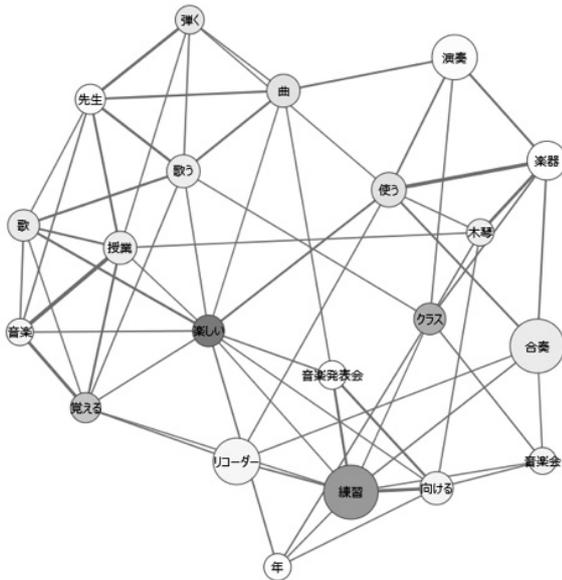


図1 小学生の時に一番印象に残った授業（小学校教員を目指している学生）

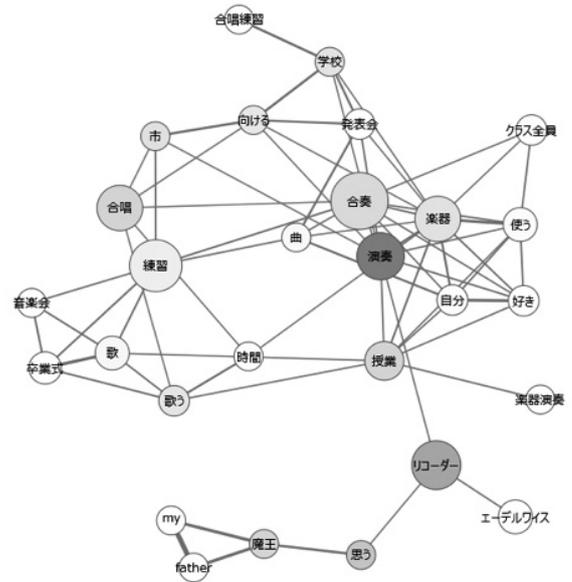


図2 小学生の時に一番印象に残った授業（中高教員を目指している学生）

表2 小学生の時に一番印象に残った授業（中学校を目指している学生）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	合奏	19	9	音楽会	2
2	練習	16	9	学校	2
3	演奏	13	9	楽器演奏	2
4	楽器	12	9	曲	2
4	合唱	12	9	向ける	2
5	授業	8	9	合唱コンクール	2
6	エーデルワイス	5	9	合唱練習	2
6	歌	5	9	参加	2
6	使う	5	9	市	2
7	卒業式	4	9	思う	2
8	クラス全員	3	9	時間	2
8	歌う	3	9	魔王	2
8	好き	3			
8	自分	3			
8	発表会	3			

中学校または高校教員を目指す学生も一番印象に残った事柄は上位4位（合奏、練習、演奏、楽器、合唱）までが共通している。これらのことから合唱、合奏といったクラス全員で歌ったり演奏したりする「表現」活動がいかに印象深かったのかがわかる。加えて、それらの発表に向けての練習や、その成果を発表する音楽会（発表会）も印象深いものであったことが明らかとなった。

一方で、希望する校種間で異なる結果が出たのは、授業やクラスに対する印象である。小学校教員を目指す学生にとって、音楽や授業、音楽会が「楽しかった」という印象を持っていることが共起ネットワーク図で示されているが、中学校では楽しかったとい

う単語はでてこない。

2) 音楽授業は、小学校の学校生活でどのような役割を持っていると考えるか。

2-1) 小学校教員を目指す学生の回答結果

設問3「音楽授業は、小学校の学校生活でどのような役割を持っていると考えるか」の自由記述回答は1,578語、226文、段落数は105であった。なお、出現回数3回以上の語によって、共起ネットワークを作成した。

まず、4回以上出現した頻出語を表3に示す。

ここから、小学校教師を目指す学生たちは、小学校の音楽授業が音楽を楽しむ場であり、友達とともに協力し合い、協調性を育む場として捉えていることが読み取れる。

次に示す図3の共起ネットワークにおいても、それが裏付けられる。

学生にとって音楽授業は、楽器に触れる体験や機会を与える場であり、一緒に歌う楽しさを知り、協調性を育む役割をもつものと考えていることがわかる。

2-2) 中学校教師を目指す学生の回答結果

では、中学校教師を目指す学生にとって、小学校の音楽授業はどのような役割をもつものと考えているのだろうか。

ここでの自由記述回答の総抽出語数は851語、186文、段落数は88であった。なお、出現回数3回以上

表3 小学校教師希望学生が考える「小学校音楽授業の役割」(出現回数4回以上)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
役割	39	育む	7
音楽	36	協調性	7
楽しい	20	息抜き	7
思う	20	表現	7
楽しむ	15	一緒	6
歌う	13	楽器	6
場	13	心	6
学ぶ	12	知る	6
協力	12	感受性	5
授業	12	楽しめる	4
豊か	12	機会	4
身	10	子どもたち	4
触れる	9	持つ	4
感性	8	人	4
育む	7	表現力	4
協調性	7	勉強	4

表4 中学校教師を目指す学生の「小学校音楽授業の役割」頻出語(出現回数3回以上)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	役割	28	9	一体感	4
2	音楽	23	9	音	4
3	楽しむ	12	9	歌う	4
4	豊か	11	9	持つ	4
5	協調性	9	9	時間	4
5	思う	9	9	息抜き	4
5	場	9	10	コミュニケーション	3
6	感性	8	10	楽しめる	3
6	触れる	8	10	合唱	3
7	楽しい	7	10	合奏	3
8	育む	5	10	子ども	3
8	高める	5	10	授業	3
8	身	5	10	心	3
9	1つ	4	10	生徒	3
9	クラス	4	10	大切	3
9	育てる	4	10	力	3

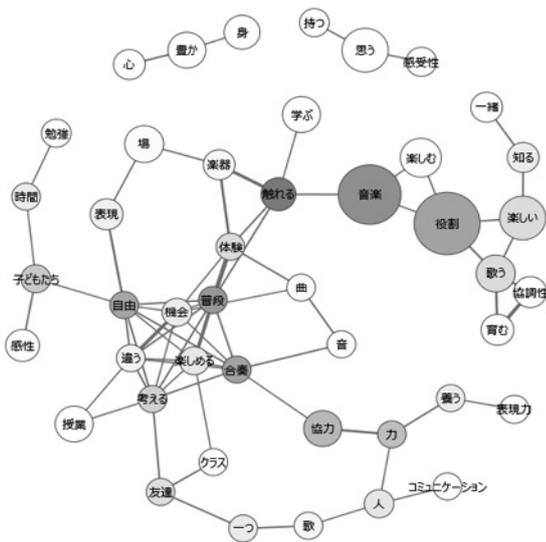


図3 小学校教師希望学生の「音楽授業の役割」の共起ネットワーク

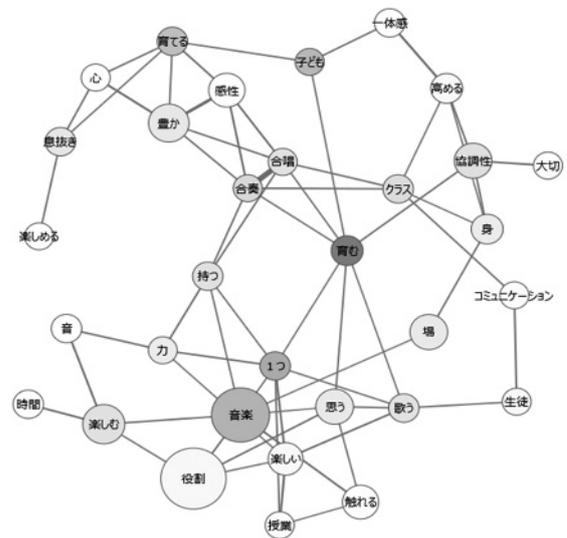


図4 中学校教師希望学生の「小学校音楽授業の役割」の共起ネットワーク

の語によって、共起ネットワークを作成した。

まず、自由記述回答のテキストデータにおける出現回数3回以上の頻出語を表4に示す。

次に、共起ネットワークは図4の通りである。

小学校教師希望学生の表3及び図3と中学校教師希望学生の表4及び図4を比較したところ、小学校での音楽授業の役割についての捉え方には、大きな差異が見られない。共通する捉え方の特徴として、音楽授業で想起される活動が、「歌う」や「楽器」による表現活動であり、鑑賞や創作活動についてはほぼ言及がない点である。これは彼・彼女らが受けてきた小学校音楽のイメージと共通している。また他

者と協力したり、一体感を感じながら活動を楽しみ、協調性を育むものと捉えている点を挙げることができる。

3) あなたが教師になって音楽の授業を行うために身に付けたい知識や能力

「あなたが教師になって音楽の授業を行うために、これから身に付けたい知識や能力」(設問7)は何かという問いに対して、小学校教員を目指している学生からの回答を単純集計したところ、頻出語の総数は1,032語、段落数は105であった。これらの抽出語の内、頻出した語上位11位が表5である。

またこの頻出語に対して、共起分析を行った結果が図5である。分析にあたっては、最小出現数を2

表5 音楽の授業を行うために身に付けたい知識や能力

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	ピアノ	45	9	楽器	7
2	音楽	23	9	力	7
3	能力	21	10	歌	6
4	弾ける	15	10	楽しい	6
5	弾く	13	11	歌唱力	5
6	授業	11	11	楽しむ	5
7	歌う	10	11	技術	5
7	知識	10	11	教える	5
8	伴奏	9	11	子どもたち	5
			11	声	5

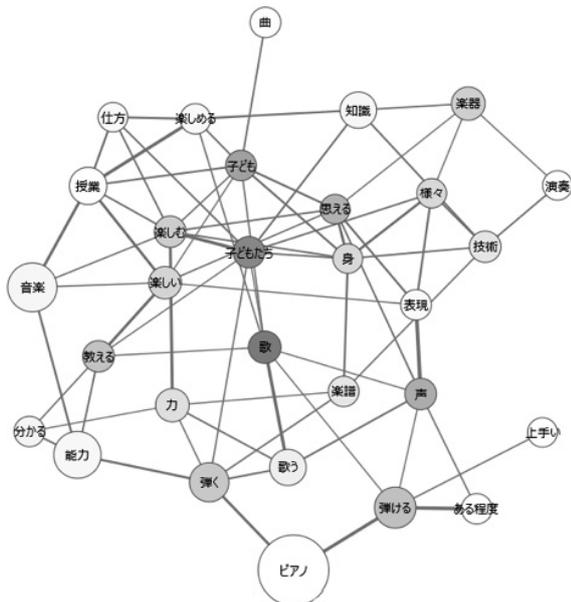


図5 音楽の授業を行うために身に付けたい知識や能力

としている。

この結果から、多くの学生がすでに子どもに焦点化して、子どもに音楽を楽しんでもらうこと、また楽しめるような授業を実践する力・教える力を求めていることがわかる。しかしそれにも増してまずピアノ（伴奏）や音楽そのものの知識・技能を求めていることが明らかとなった。

4) 希望校種に見る「音楽授業という場」と「音楽授業で教えるべき事柄」の関連性

4-1) 小学校教師希望学生と中学校教師希望学生の考える音楽授業という場

小学校教師希望学生にとって、音楽授業はどのような場であったのか。選択肢回答の結果(%)は表6の通りである。

一方、中学校希望教師の結果を表7に示す。

表6と表7を比較したところ、特筆すべき差異は

表6 小学校希望学生の考える音楽授業という場(回答数:109)

普段接することのない音楽に触れる場	8%
みんなと一緒に音楽する場	49%
音楽表現の技術を身につける場	8%
音楽の知識を身につける場	16%
音楽を理解する場	4%
息抜きをする場	16%

表7 中学校希望学生の考える音楽授業という場(回答数:109)

普段接することのない音楽に触れる場	13%
みんなと一緒に音楽する場	37%
音楽表現の技術を身につける場	7%
音楽の知識を身につける場	21%
音楽を理解する場	7%
息抜きをする場	16%

見当たらない。小学校、中学校のいずれの教師を希望する学生も、最も高い回答率となったのは「みんなと一緒に音楽する場」であった。

次に「みんなと一緒に音楽する場であった」と答えた学生たちが、音楽授業で教えるべき事柄について、どのように考えているのだろうか。

4-2) 音楽授業を「他者とともに音楽する場」と捉える学生が考える「教えるべき事柄」

前項で「みんなと一緒に音楽する場」と回答した学生を抽出し、音楽授業で教えるべき事柄として回答した内容(1位回答)の内訳を表8と表9に示す。

表8 「みんなと一緒に音楽する場」と答えた小学校希望学生による「教えるべき事項」

音楽による表現を楽しむ	54%
音楽表現の技能を高める	2%
協調性を育む	17%
多様な音楽文化に触れる	6%
余暇を楽しむ素地を作る	2%
音楽に対する感性を育成する	19%

表8及び表9から、いずれの校種を希望する学生も、多くが「音楽による表現を楽しませたい」と考えていることは明らかである。続いて2位となった内容に目を向けると、小学校教師希望学生は「音楽に対する感性を育成する」ことを1位として回答する割合が高かった。

表9 「みんなと一緒に音楽する場」と答えた中学校希望学生による「教えるべき事項」

音楽による表現を楽しむ	73%
音楽表現の技能を高める	0%
協調性を育む	15%
多様な音楽文化に触れる	6%
余暇を楽しむ素地を作る	0%
音楽に対する感性を育成する	6%

5. さいごに

本稿では、教育学部に在籍し、将来、教員を目指す大学生に行なった質問紙調査の中で、特に自由記述回答に焦点を当てて、それらをテキストマイニングの手法によって分析することで、大学生が小学校時に受けてきた音楽授業についてや、彼・彼女らが考える小学校音楽を教える教師像を明らかにした。もちろんこのことが直接、小学校音楽を教えるための教師の資質・能力を明らかにすることは繋がらないが、現場においてどのようなことが教えられ、またそれを受け手（当時小学生だった大学生）がどのように捉え、また今、教師を目指す志を持って小学校で音楽を教えるために何が必要と感じているのかを引き出すことで、教師の持つ資質・能力の一端を明らかにできると考えた。

まず多くの設問で、小学校教師を目指している学生と、中高の教師を目指している学生との間に、これまで自身が受けてきた小学校音楽のイメージや、また小学校で音楽を教えるために必要な資質・能力に大きな違いがないことが判明した。つまり、今回質問紙調査を行なった学生に関しては目指す校種によって教師の資質・能力に違いを見出すまでには至っていないということが言える。

共通する点としては、音楽授業は「みんなと一緒に音楽する場」であり、そこで音楽による「表現」を楽しみ、そして「協調性」を育むということである。このことは、印象に残った授業のキーワードに「合奏」、「合奏」、「練習」、「演奏」が上位にあがったことから示されている。そしてそのための能力としてまずピアノ（伴奏）の技能を必要であると考えていることも明らかとなった。音楽科教育では、表現（歌唱・器楽）のみならず鑑賞や音楽づくりについても同じように取り上げなければならず、当然、これらについての知識や指導技術も必要だが、少なくとも大学生からは必要な資質・能力としてあげられなかった。このことは教員養成課程における音楽科教育のカリキュラム開発において今後より一層考

慮しなければならない点であろう。

なお、本稿の課題としては、質問紙調査実施までに履修した大学での授業科目の内容について回答者の統制が取れていないことがあげられる。そのため、履修科目の指導内容が回答者に影響を及ぼした可能性は否定できない。引き続き、調査を継続していく中で、学生の音楽既習歴や履修授業等も考察の一要因に含めていきたいと考えている。

6. 参考文献

- 1) 森村祐子「小学校音楽科教育における一考察 - 学生への質問紙調査から見る教員の指導内容について -」、『学校音楽教育研究』16号, 271~272頁 (2012)。
- 2) 日本音楽教育学会編「『音楽についてこう思う!!』『音楽について言いたい!!』学習者アンケート」(http://xn--6oqq31akwh8pa94cx0fi79cv40b.com/pdf_files/view/165_2017/11/10にアクセス)。
- 3) 松永幸子「教職を目指す学生の教師についての意識 - 教師という仕事の魅力と児童生徒とのかかわり方、研修とプライベート、今後の教師のあり方にかかわって -」、『埼玉学園大学紀要 (人間学部篇)』第15号, 67~76頁 (2015)。
- 4) 瀧川淳/古山典子「質問紙調査を通して見る大学生の音楽教育観ならびに音楽教師像」『熊本大学教育学部紀要』65, 155~161頁 (2016)。

7. 資料

学生には、下記の質問紙調査を行なった。質問紙調査を行う際には、回答結果を統計的に処理し考察するため、個人や団体が特定されることはないこと、また本研究にのみ使用することを明記し、伝えている。

音楽授業と音楽教師に関するアンケート

0) 今現在, 将来目指している職種を以下から選んで○をしてください.

・小学校・中学もしくは高校・その他 ()

1) 音楽授業はあなたにとってどのような場でしたか. もっとも当てはまるものに○をしてください.

a. 普段接することのない音楽に触れる場

b. みんなと一緒に音楽する場

c. 音楽表現の技術を身につける場

d. 音楽の知識を身につける場

e. 音楽を理解する場

f. 息抜きをする場

g. その他 ()

2) 音楽授業で学んだ曲 (歌唱・器楽・鑑賞) についてどう思いますか.

[自由記述]

3) 音楽授業は, 小学校の学校生活でどのような役割を持っていると考えますか.

[自由記述]

4) 小学校の音楽授業は専科教諭 (音楽の先生) による授業でしたか

はい (年から)・いいえ・わからない

5) 小学校の時に, 一番印象に残った音楽授業の内容を教えてください.

[自由記述]

6) 小学校で受けた音楽の授業は好きでしたか. それはなぜですか.

好き・嫌い・どちらとも言えない

理由 [自由記述]

7) あなたが教師になって音楽の授業を行うために, これから身に付けたい知識や能力は何ですか.

[自由記述]

8) 音楽授業で教える必要のある事柄について下記から上位2位を選んでください.

a. 音楽による表現を楽しむ

b. 音楽表現の技能を高める

c. 協調性を育む

d. 多様な音楽文化に触れる

e. 余暇を楽しむ素地を作る

f. 音楽に対する感性を育成する

謝 辞

本研究は, JSPS科研費 26381240の助成を受けて行っている.